

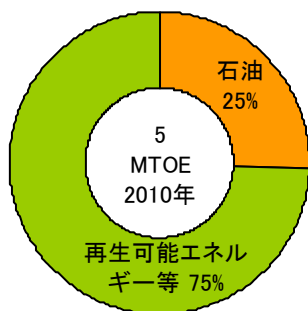
## 1-9 カンボジア

### 1. サマリー

#### 1. エネルギー事情

- (1) 一次エネルギー供給量 (2010年) : 5 百万 TOE (日本の 1.0%)
- (2) 一人当たりの一次エネルギー供給量 (2010年) : 0.36T0E/人 (日本の 9.4%)
- (3) エネルギー自給率 (2010年) : 72%
- (4) エネルギー起源 CO<sub>2</sub> 排出量 (2010年) : 3.76 百万 CO<sub>2</sub> 換算 ton (日本の 0.3%)
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO<sub>2</sub> 排出量 (2010年) : 0.27CO<sub>2</sub> 換算 ton/人 (日本の 3.0%)
- (6) エネルギー源別可採年数 : 該当なし

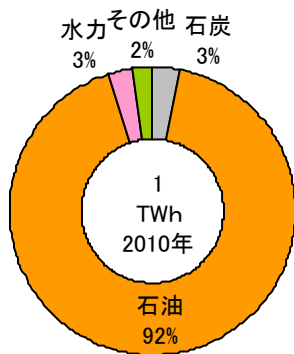
一次エネルギー供給構成 (2010年)



COUNTRY: Cambodia

(出所) IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries 2012 Edition

発電電力量構成 (2010年)



COUNTRY: Cambodia

(出所) IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries 2012 Edition

## 2. エネルギー政策のポイント

### (1) エネルギー政策担当機関

- 鉱工業・エネルギー省 (Ministry of Industry, Mines and Energy: MIME) がエネルギー政策・方針の策定、電力開発計画の策定、電力技術・安全・環境基準の制定を行う。

### (2) 基本政策

- 1994年10月に発表された「エネルギー部門開発政策」(Energy Sector Development Policy)では、以下の4点を目標としている。
  - ① カンボジア全国に適正な料金でエネルギーを供給する。
  - ② カンボジアへの投資を促進し、経済発展を促す価格で、信頼性の高い電力供給を行う。
  - ③ カンボジア経済に必要なエネルギー資源の探鉱、及び、環境と社会に優しいエネルギー資源の開発を促進する。
  - ④ エネルギーの効率的な利用の促進とエネルギーの供給・消費によって生ずる環境負荷の最小化を図る。

### (3) 最近の動向

- 2011年12月、国内最大の Kamchay 水力発電所（発電容量は193.2MW）の運転が開始された。石油火力発電への依存軽減が期待される。Sinohydro Kamchay Hydroelectric Co. Ltd (中国 Sinohydro Corporation の100%子会社) によってB00方式で建設され、40年間の運営・維持管理を行う。

## 3. 日本とエネルギー分野における関係

- 2011年11月、(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)とカンボジア・鉱工業エネルギー省は、同国内で籾殻などバイオマスを利用したエネルギー・環境技術の実証開発事業を行う事で合意し、覚書(MOU)を締結した。この事業は、農村地帯の精米所に低コストでコンパクトな省エネ型籾殻分離システムを含む、バイオマス発電環境システムを導入、精米品質の向上や電力の供給を図るほか、発電燃料として使った後の炭化した籾殻等を土壌改良剤として利用し、コメなど農作物の増産を目指すもので、カンボジア王国内で日本の技術の普及を図ることを目的としている。
- 2012年10月、Jパワー(電源開発)や中国電力など日本の3社が、カンボジアで輸入炭を使った石炭火力発電所の事業化調査に乗りだしたことが分かった。35万~50万kw規模の発電プラントを3~4基造る方向で、9月から調査に着手。候補地には、Phnom Penhから車で南西へ約230キロの国際港・Sihanoukville港周辺やタイ国境近くの工業団地周辺などが挙げられている。いずれも日系企業の進出が今後増える地域とみられており、発電プラントは2020年頃の稼働開始を想定している。

## 2. 主要エネルギー指標

(2010年)

(1)	一次エネルギー供給量	5 MTOE
(2)	一人当たりの一次エネルギー供給	0.36 TOE/人
(3)	GDP 当たりの一次エネルギー供給	0.58 TOE/千\$
(4)	エネルギー自給率	72 %
(5)	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量	3.76 百万 CO <sub>2</sub> 換算 ton
(6)	一人当たりエネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量	0.27 CO <sub>2</sub> 換算 ton/人
(7)	エネルギー源別構成率	
	石炭	0 %
	石油	25 %
	天然ガス	0 %
	原子力	0 %
	水力	0 %
	再生可能エネルギー等	74 %
(8)	エネルギーの輸入依存度	28 %
(9)	石油の輸入依存度	100 %
(10)	輸入原油の中東依存度	— %
(11)	原油輸入先	
	第1位	—
	第2位	—
	第3位	—

(出所) IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries 2012 Edition、

(5)~(6) は IEA, CO<sub>2</sub> Emissions from Fuel Combustion 2012 Edition